



2026 JULY / EGD CLINICAL QUALITY REPORT

胃カメラ診療の質を、 7 月も数字で確かめる。

2026 年 7 月の 84 件を全件検証し、検査経路、患者背景、病理、重要腫瘍、治療後サーベイランスを同じ定義で振り返りました。

84	1	1	8
胃カメラ Validation 100%	食道扁平上皮癌 病理確定	胃 NET G1 既知病変の再評価・病理確認	胃がん治療後 surveillance exams

PUBLIC REPORT	個人が特定されないよう十分に配慮した公開レポートです。鎮静関連解析は Production Freeze により除外しています。
---------------	--

84 件を、同じ定義で検証。

Universal Intake System Ver1.1 の月次 Production dataset を用い、Pending を残さず月次集計を閉じています。

84 EGD 総件数 2026/07/01-07/31	50 病理連結 59.5%
66 経口 78.6%	18 経鼻 21.4%
58.6 歳 平均年齢 30-81 歳	48 / 36 女性 / 男性 57.1% / 42.9%
82 Validation Completed 97.6%	2 Completed with Warnings Review Required 0

Registry rule	原資料に記載のない事項を推測で補いません。2 件の warning は分類・経路記載の整合性に関するもので、Review Required は 0 件です。
---------------	--

どのような背景の胃を、診ているのか。

H. pylori 除菌歴と Kimura-Takemoto 萎縮分類を、記載された範囲で確認します。

56 HP 除菌後が明記 66.7%	65 Kimura 分類記録あり 77.4%
37 C 型萎縮 C1 5 / C2 18 / C3 14	28 O 型萎縮 O1 17 / O3 11
66 経口 通常径スコープを含む	18 経鼻 細径スコープ

Interpretation	Kimura 分類の分母は「記録あり 65 件」です。未記載例を正常・萎縮なしとして扱っていません。HP 除菌後も、本文に明示された症例のみを数えています。
----------------	--

病理と腫瘍を、カテゴリーを混同せず集計。

胃生検の Group 分類だけでなく、食道病理、胃 NET などを別カテゴリーとして扱います。

50 病理連結 59.5% of all EGD	42 最終 Group 1 胃生検
1 最終 Group 2 indefinite for neoplasia	7 Group 分類外の病理 食道病理・NET 等
2 Group 2 を一度認めた症例 うち 1 例は追加検討で Group 1	0 病理 Pending 月次 close 時点

Borderline pathology	Group 2 を即座に腫瘍確定として扱わず、免疫染色など追加検討後の最終結果を別レイヤーで確認します。
----------------------	--

7 月に確認した重要腫瘍を、診断経路で追う。

「検査時の認識」と「病理確定」を分け、治療後病理を先取りしません。

1 食道扁平上皮癌 25 mm・2 型 / 病理確定	1 胃 NET G1 既知 3 mm 病変の再評価・病理確認
0 新規病理確定胃腺癌 July dataset 内	2 重要腫瘍 SCC + gastric NET

食道癌は通過障害を伴う病変として認識され、生検で中分化型扁平上皮癌を確定しました。胃 NET は既知病変の再評価で、瘢痕部を特定して再生検し NET G1 相当を確認、専門医療機関への治療相談につながっています。

Endpoint rule	「7 月に新規発見した胃 NET」ではなく、「既知病変の再評価・病理確認」と表現します。新規病理確定胃腺癌 0 例は、見逃し 0 を意味する指標ではありません。
---------------	--

胃がん治療後 8 件を、継続して監査。

治療後の胃を通常の検査と同じ分母に埋め込まず、surveillance として別に確認します。

8 胃がん治療後 EGD July 2026	ESD / EMR 内視鏡治療後 複数の治療歴を含む
胃切除後 外科治療後 残胃・吻合部を含む	0 明示された局所再発 July 記載上

治療後例には、ESD 後瘢痕、EMR 後、胃切除後、残胃のサーベイランスなどが含まれます。疑わしい粘膜変化があれば色素・NBI 拡大観察と生検を行い、治療後背景と切り分けて評価しています。

Surveillance rule	治療歴には重複があり得るため、治療法別の単純合計を患者数として扱いません。7 月は検査単位 8 件として公開します。
-------------------	--

安全性も、未記載を「異常なし」に置き換えない。

Universal Procedure Safety Module Ver1.1 の非鎮静項目のみを集計し、鎮静関連解析は除外しています。

1 鼻出血 Present 経鼻 18 件中	2 疼痛 Present 全 84 件中
17 鼻出血 Explicitly Absent 経鼻記載から抽出	16 疼痛 Explicitly Absent 明示記載のみ

Bleeding、咽頭損傷、検査中止、その他有害事象は 84 件すべて Not_Documented です。これは「0 件」ではなく、「この dataset では明示記載を確認できない」ことを意味します。

No inference	Not_Documented を「合併症なし」と読み替えません。経鼻 1 例では鼻出血と疼痛が明示され、次回は経口または反対側鼻腔を検討する記載まで追跡されています。
--------------	---

Route validation: 経路記載が曖昧だった 2 例はカルテと突合して再確認し、7 月の最終集計は経口 66 件・経鼻 18 件で確定しました。うち 1 例ではレポート本文に残存していた経鼻テンプレート文が実際の検査経路を示さないことを確認し、経鼻関連の安全性集計から除外しました。

CONTINUOUS QUALITY IMPROVEMENT

一件一件の診療を記録し、
振り返り、次の診療へつなげる。

月次レポートは単月の増減から改善・悪化を断定するためのものではありません。同じ定義で記録を継続し、半期・年次の Clinical Registry へ統合します。

Source: July 2026 EGD Distribution Dataset Production Lite Final Ver1.1 / Universal Intake System Ver1.1